



呼びかけ人代表あいさつ

兵庫県弁護士会野球部 神戸ドルフィンズ

総監督 羽柴 修

我が神戸ドルフィンズのモットーは「元気で明るく爽やかに！」であります。勝っておごらず、負けてクサらず…の姿勢こそが大切であると、口角泡をとばしながら言い続けて何と 30 年！ 何よりも野球を楽しむ心、同じくチーム一丸となって全力を尽くす仲間とのふれあいを大事にする素晴らしいチームです。

そんなドルフィンズにとって、井口選手の突然の訃報は衝撃でした。同選手は「元気で明るく爽やかに」を絵に描いたような、神戸ドルフィンズの看板選手でした。

井口寛司選手のドルフィンズ入部は 1989（平成元）年、兵庫県弁護士会登録と同時でした。その 4 年後の 1993（平成 5）年にドルフィンズは日弁連野球第 13 回全国大会（神奈川県・平塚球場）に初出場しました。その 1 回戦札幌ローヤーズ戦に 3 番センターで先発出場した井口選手が、センターからのレーザービーム送球で 2 塁走者を刺すという（草野球ではそうない）プレーで、井口選手は勿論、神戸ドルフィンズも全国デビューを飾りました。

その翌年、ドルフィンズはグリーンスタジアム神戸において第 14 回全国決勝大会を主催したのですが、この頃から全国決勝大会の「優勝」を夢見るようになり、井口選手は俊足・強肩・強打の外野手（センター）、あるいは捕手として、予選突破のみならず全国大会初制覇に欠くことができない存在となりました。

それだけではなく、井口選手と藤本尚道助監督兼監督代行の二人は、全国決勝大会において、参加チームの各選手の活躍振りを即興作詞のうえ、替え歌を披露するという妙技により、それが全国決勝大会懇親会の恒例行事となりました。

そんな井口選手を神戸ドルフィンズは失いました。私にとって弁護士生活の中で神戸ドルフィンズとの出会いは本当に楽しかった。「井口寛司選手を偲ぶ会」が、何ものにも替え難い時間を井口選手と共有できたこと、多くの皆さんとその思い出を語り合う機会となることを願っています。

以上